

日本の新聞記事 防災教育素材に

アジア太平洋経済協力会議（APEC）の域内で共通した防災教育の教科書作りが始まった。東日本大震災を教訓に筑波大が提案し主導する。今年には日本の新聞記事を素材として地震・津波を主題に取り組む。15日、つくば市のつくば国際会議場で認識を共有する会議が開かれた。

防災教科書作りを担うのは、APEC「算数・数学授業研究プロジェクト」の専門家グループ。12～14年の3年がかりで年次ごとに教科書を作る

APECで教科書作り



国際会議で趣旨を説明する筑波大の磯田正美准教授—つくば市竹園、つくば国際会議場で

大震災教訓に筑波大主導

計画だ。この日は約30カ国150人が参加した。プロジェクト代表者の磯田正美筑波大准教授（数学教育学）が津波で生徒が犠牲になった実例

を紹介。「子供たちを守るために科学的知識を蓄えなければならぬ。数学的な見地から津波の速度などを知れば、何分でも逃げられるか想像でき

る」と説明。タイ教育省のベンジャラク・ナムファ初等中等教育局副局長は「受動的から能動的な学びに変わっていくためには、教え方も変わらなければならない」などと述べた。

専門家グループは16日、中学校で新聞記事を活用した授業研究に臨むなど18日まで東京都内で教科書作りを進める。年内をめどに、地震・津波編をAPEC各国の言語で、タブレットパソコンで読む電子教科書として作る。

【安味伸一】